

序章 シナリオ

「アニメーションムービー　およそ3分間」

●イラスト（1）表示　エフェクト、ふきだしあり

ユーヤ　人間……………？

少女の肌は青白く、まるで死んでいるように見えた。

表情は幸せそうに眠る幼い少女のようなのに、息をしているように見えない。

ユーヤ　おい、聞こえるか？

反応はない。人間であり意識を失っていたとすれば、~~2~~に数えられているはずだ。

植物のツタに覆われたカプセル。その表面をノックをするように叩いた。

●イラスト（2）表示　エフェクト、ふきだしあり

ユーヤ　！

？？？　ん……………あ、ハカセ……………？

彼女の声はガラスに反響して聞こえた。

ユーヤ　違う。…………織田雄也。十七歳だ

？？？　ユーヤ、っていうんだ。よろしく

ユーヤ　…………君の名前は？

セシル　セシル・シュバリエ

○こっからLive2D

●背景カプセル前

セシル　セシルだから、シスでいいよお

なんだそれは。ロバートがボブになるようなものか。

○セシル無言でにこにこ笑顔

ユーヤ　…………コレ、開けていいか

ガラス越しに、セシルと目が合う。

○セシル焦りを含んだ苦笑い

セシル ……………どうして？（とぼけたように）

ユーヤ 声がガラスのせいでこもってるからだ

セシル そんなにセシルの声って綺麗ー？

○ユーヤ呆れ顔

ユーヤ そうかもな

○セシル両目下向きに閉じ笑顔

セシル 別に、セシル頑張ればこっから出られるよ

○ユーヤ口閉じ目見開いた驚き顔

ユーヤ ！

○セシル目開け切な笑顔

セシル でもハカセの許可が必要なんだよね。戦争が終わるまでここから出ちゃいけないって

○ユーヤ少し驚き、目薄暗い虚無顔

ユーヤ ……………

俺はゆっくりと腰を下ろし、兄貴を傍に注意深く置いた。

兄貴の南京錠のネックレスを取り、十字架の上からかける。チェーンの長さが違うおかげで、二連チェーンになってくれた。

セシル 綺麗

○セシル眉毛下がりにこにこ切なめ

セシル いいなあ、セシルもそういうの欲しい

ユーヤ ……………そうか

俺は近くのアッシュンビルを指差す。

ユーヤ そこに似たようなの売ってるから、後で買ってやる

セシル え！いいの！？

ユーヤ ああ。こんな機会二度とないだろうし

○セシルの輝いていた表情から虚無顔

セシル 二度と……………

○ユーヤ決意の顔

ユーヤ セシル。悪い知らせと俺への知らせどっちがいい？

ユーヤ 俺とこの世界で起こった絶望的なことを知るか。俺にお前がカプセルに入ってる理由を教えるか

○セシル目暗めの虚無顔、虚無目のまま口角上げ

セシル ………………

セシル真面目な話はカフェでしたい派なの

○セシル目逸らし吐き捨てたような表情

セシル 絶望的な事実ってことはもう出てもいいんだよね

ユーヤ ………………ああ

●薄黒い背景、靴音のみ響く

●背景道

セシル あんなに情報量が多かったのに……………こんなに閑散としてるのなんか新鮮だね

ユーヤ 来たことがあるのか、このオフィス街に

セシル ハカセの研究所が近くにあるから

ユーヤ ハカセ……………

セシル セシルのパパ。青い目と金髪なの。戦場が似合うんだ。パパは博士で、兵器を作らされてた。えっと……………あの、魔法陣がでるやつ

○ユーヤ驚き顔

ユーヤ ……！

セシル？

○ユーヤ少し青ざめ冷や汗顔

ユーヤ 君の父親は、戦場に普通の銃も……持って行った……？

○セシルとぼける

セシル 普通の？

ユーヤ 人を消す兵器じゃなくて、人の血を流させる方の

○セシル思案顔、その後普通の顔

セシル 確かに、持って行ってたかな

○ユーヤ息を飲んだ感じの表情

ユーヤ ……（ボイスでは、はっ…みたいな）

セシル そうだなー、確かパパはたく……たくや……？って人を始末する任務で持って

く……とかいう通話をした気が……うーん、なんだっけなあ……（ここは黒ノートの設定と合わないので消去）

○ユーヤ目見開く、細める、青ざめた顔で胸に手を当てて深呼吸

ユーヤ ……（ボイスでは深呼吸の音）

セシル どうしたのユーヤ？おいてっちゃうよ？

○ユーヤ目閉じからの虚無顔。目薄暗くハイライトなし

ユーヤ ……大丈夫だ。行こう

●背景カフェ

セシル やっぱり誰もいないね

○ユーヤのみ写す

ユーヤ ……

●イラスト（3）ふきだしあり

セシル えっ、なにに！？出会って早々壁ドン？

ユーヤ ……お前、戦争が終わったことを――俺以外の人口がゼロになったことを知っているな

セシル 知ってるよー。ニュースで見たからね

ユーヤ …………… ハァ………… (怨念こもったため息)

セシル ユーヤ？

ユーヤ とぼけるな。

セシル ！

ユーヤ さっきもよく知らないという風に誤魔化しただろう？拓也のことも、戦争のことも……俺以上に知っている。君の父親のことを俺にそう安易と話していいのか？そもそもあの容器はお前の父親が善意で作ったものなのか？過去のことを隠す理由もないだろう……この世界は、もう滅んだも同然なのだから

セシル ユーヤ、何言ってるの

ユーヤ …………… 単刀直入に言おう

ユーヤ お前は何者だ？

セシル セシルはれっきとした人間だよ

ユーヤ ……………

セシル 人間なら△が見つけてくるって思うでしょ？でも、違うの。セシルは特別なの

セシル あるでしょ、ここに

セシルは細くて白い指の先を俺の左胸につけた。

ユーヤ ……人工心臓か

●背景黒 ふきだしあり

——今の人口は、ゼロ人です。

△は、そう言っていた。もしかして、俺とセシルは。

●イラスト(△) セシル虚無顔口閉じ、ユーヤ青ざめ焦り口少し開いてる顔表情差分

ユーヤ 人としてカウントされない……………？

セシル その通り。人工心臓のおかげで永遠に生きられる。パパが発明したんだよ。すごくない？なんでたくやさんたちの手に渡ったかは本当に分からないけど、世界に〜つだつて言ってた

ユーヤ ……………

セシル 本当にセシルたち〜人しかいないんだよね

ユーヤ …………… そうだ

○背景カフェ

○ユーヤ冷や汗、目閉じ、普通顔

セシル どう、落ち着いた？

ユーヤ …………… ああ。取り乱してすまない

セシルは笑顔でカウンター席に腰かけた。何もかもが電子化している今でも、現代人は、食料だけは素材そのままを使っている。

セシル コーヒー淹れるの上手いんだね

セシルは俺が淹れる様子を両肘について見ながらそう言った。出来上がったコーヒを置き、セシルの隣に座る。

セシル ……美味しい

○ユーヤ頷く

セシル ……セシルは人工心臓の実験のために、あのカプセルに入ってたの。でも、パパにどうしても死なないけど安静にしていってほしいって頼まれたから……

セシル 娘思いの良いパパなんだよ

ユーヤ ……………

セシル ……ユーヤってあんま笑わないよね

俺は無視して、コーヒークップに再び口をつける。セシルは俺の顔を覗き込んでから、正面を向いて言った。

セシル ゆーやがもし辛いことがあって笑えないなら、

俺は目を閉じる。コーヒーの香りだけを感じる。

ユーヤ …………… 助かる

そう言いながら立ち上がる。自分でもなぜそう言ったのか分からなかった。

●背景街

セシル コーヒー美味しかったよ。ありがとう

ユーヤ ……どういたしまして

セシルは段差をジャンプして飛び越えてから、歩き始めた。

○セシル得意げな顔

セシル ねえユーヤ、なにか忘れてない？

ユーヤ …… ネックレスか

セシル お！覚えてた

●背景お店 この一瞬の為だけにつくるのめんどいけど 背景はマーダグラムみたいにしたいの雰囲気がいいからね

セシル わあ……カワイイ……！

ユーヤ 同じものはなさそうだな

セシル じゃあ似てるやつにしたいー

ユーヤ 好きにしてくれ

●暗くなって←に切り替わる

○セシルの絵にネックレスがつく、×みたいなやつ ユーヤのは+みたいなやつだよ

セシル ねえ、探検したいから駅まで行こうよ

○ユーヤ頷く

ユーヤ 本当に君はよく喋るな

セシル お喋りだからね。いつもパパに呆れられてた

○二人いろいろ喋ってるボイステキストなし

●背景駅

これだけ人がいない駅前初めて見たー！なんだか面白いね。本当にセシルたち以外誰もいないんだよね

ユーヤ ㄥを信じるならそうだ

セシル だね……………あ、駅の中行ってみようよ！電車動くのかな？

○ユーヤ目見開き顔

俺はその一言で気づいた。この街は今や島となっているから別の駅には行けない。

セシル ゆーや、なんで黙ってるの？

○ユーヤ目閉じ、浅い深呼吸、目細め虚無顔

ユーヤ お前が知らないことを教えるためにも、行こうか

きっとセシルはㄥが知らせていないこと以外は知らない。俺はセシルを連れて駅のホームへと向かった。

○すたっ（足音効果音）、セシルユーヤ一人ずつ表示

そして、俺は軽々とホームから飛んで線路に着地した。

セシル え？ゆっ、ゆーや！？なにしてるのっ！？

○ユーヤイケメン目細め、斜め下向きから正面

ユーヤ ……………お前も来い

○二人とも非表示

俺の細い目は暗闇の中で光り、セシルの目に反射した。

セシルはしばらく無言で口を結んで汗を浮かべていたが、ホームからジャンプして着地した。

線路を歩いて、ホームの端まで行く。遠くまでカーブが広がっている。その上には、壮大な青空。

○二人とも表示

セシル きれーい……………

セシルは空を見上げて呟く。その赤と青の瞳に雲が反射して、輝いていた。

セシル ……あれっ？見て、ゆーや

セシルが指差した先には、海が広がっている。

○セシル青ざめなし絶望顔

セシル ……………なん……で……

○ユーヤ目閉じ、普通眉毛

ユーヤ ……お前は大陸沈没のニュースを見たか？

セシル ……………見た

ユーヤ それで、この世界はどうなってると思った？

セシル この国だけが残って……地球はほぼ海の星になったと思った

俺は目を開けて、セシルの両肩を両手で掴んだ。

ユーヤ それが違うんだ。この世界にある土地はもう、この街だけだ

セシル え……うそ………

ユーヤ 嘘じゃない。事実だ

セシル じゃあ、セシルの家もユーヤの家もないの？

ユーヤ ……ああ

セシル 無人旅行もできないの？

ユーヤ ……そういうことを考えてたのは心外だけど、そうだ

セシル そっ……………か……………

ユーヤ いつまでこの世界が続くかわからないが、俺も、お前も……この星の唯一の命なんだ。

ユーヤ 何があっても……生き延びるという使命を、果たす。

セシル ……そうしよう。人類最後の希望、だからね

●背景黒 キャラなしふきだしなし ←ボイスはユーヤ ユーヤの心の中というイメージ
ピピピピ（カプセルの機械音）

少しの間

ユーヤ セシル……………頼む……………起きてくれ……………

